

# ひなぎくの森 第12 文\*sawori

ある日、エバグリに一枚の封筒が届いた。

いつものようにひなぎくが郵便物の仕分けをしていると、店長宛のその真っ白な封筒を発見した。差し足を見ると関根さち・・・前の奥さんだ！！ひなぎくの心臓が高鳴った。

何だろう・・・店長が離婚してからもう9年だよね・・・と、と、と、とにかく店長にっ！

「店長、お手紙です」なるべく平静を装いひなぎくが手紙を渡す。

「うす」といって差出人を確認すると「え？さっちゃん？」とびっくりした様子で、すぐに手で破いて中の手紙を取り出した。その手紙を熟読している松山店長。ひなぎくは作業しているふりをしながら横目でその様子を伺っていた。レジカウンターに肘をつき手で顔を支えながら指が口元へ。ひなぎくの大好きなその仕草は今、別の女性の書いた文字を熱い視線で追っている。その文字にすら嫉妬した。

しばらくすると店長がレジに突っ伏した。

「うー、そっかあ～～さっちゃん結婚するか～～」

え、うそ、さちさん再婚するの？映画で仕入れた知識上では、元嫁が再婚するのって相当辛くて遣る瀬無い気持ちだという。(例：サイドウェイ) きっと店長も何とも言えない切ない気持ちなんだろうな。

「ほんっと、よかったよー！！まじで嬉しい。さっちゃん、また好きな人ができて、それで結婚してさ～幸せなんだよね。」

ひなぎくは驚いた。腐るところか喜んで。この人、本当にさちさんのこと好きじゃん！

「さちさん、再婚するんですか？」

「うん、式とかは挙げないって。一応報告してくれたんだ。相手は年下の大工さんだっ！

びっくりだよ、てっきりスーツの仕事が好きだと思ってたからさ。」

店長はちょっと涙ぐんでいるようだ。

「店長、さみしくないですか？」

「さみしくないよ、嬉しいよ。別れてからずっと、さっちゃんの幸せだけを祈ってた。」

そういうと店長は手紙の文字を愛おしそうに眺めた。

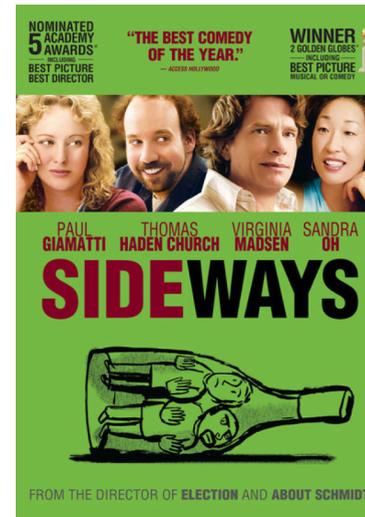
「前にひなぼんがゆったよね、俺についてこいって、ちょっと強引なところを奥さんは望んでるって、年下の大工さんってそれっぽいよな。さっちゃんは俺がこの店を始めた時、将来を考えると不安って言って去ったんだ。俺はさっちゃんの気持ちを優先しちゃったけど、男らしい彼が、強引にさっちゃんを不安ごとと包み込んでくれるといいよね。」

「人によりますよ。私は強引に不安を丸め込まれるより、私の気持ちや幸せを第一に考えてくれる方が強い愛を感じます。」

店長は一瞬私を見つめると、頬杖をついて「ははっ」と笑った。

つづく

## \* ひなぎくの森のカルチャーその12 「サイドウェイ」



### 「サイドウェイ」

2004年のロードムービー。結婚前の友人と2人でワイナリー巡りの旅行を計画したバツイチのマイルス。しかし友人で俳優のジャックは結婚前のナンパの旅にしようと思論んでいます。旅先で知り合った2人の女性といい感じになる2人。そこで元嫁が再婚するという情報を知って荒まくるマイルス。果たして中年の危機の恋の行方は。



「サイドウェイ」は大好きな映画です。小粋な大人のロードムービーですが、中年の危機の焦りと切なさも感じ取れる素晴らしい作品。この映画に限らず、「ゴッドファーザー」など映画の中では「元嫁が再婚」というワードに元夫たちは激しく動揺。一度自分のものだった女性が人のものになってしまうやせなさなのでしょうか。

でも松山さんはもっと達観しておりました。男性陣は見習いましょう！

(前回までのあらすじ) エバグリで仲良く交流を深めるフランソワと椿と松山店長。松山に、毎年バレンタインデーにひなぎくからもらうチョコの格差を指摘する椿。はぐらかす松山だが、実は毎年2月14日にもらうチョコは、ひなぎくのからのラブレターともいえるラブソングが添えられていたのだった。

「ひなぎくの森」のバックナンバーはホームページでご覧になれます→



\* sawori \*